

# 石綿に関する健康管理等専門家会議報告書の概要

## 1. 石綿に関する情報の提供と相談体制の充実

住民の不安解消のためには、十分な情報提供と相談体制の充実を図り、必要な場合に的確に医師の診察につなげていくことが重要である。

自記式簡易調査票を相談窓口（保健所、産業保健推進センター、労災病院等）やインターネット等で入手できるようにしたり、結核健診、肺がん検診等の機会を活用し、不安を持った住民等に対し当該調査票を配布することにより、住民の不安解消や、的確な相談及び診断に活用していくことが考えられる。

## 2. 石綿ばく露に関する健康管理の考え方と手法

中皮腫等の罹患率が相当に低いと考えられる一般住民に対して、一律に胸部エックス線検査を実施することは、検査による発見率が低く、所見が認められないことが石綿ばく露がなかったことの証明にはならないこと、検査時の放射線被ばくにより発がんリスクが高まること、罹患率が低いと考えられる集団に一律に検査を行うことが早期発見・早期治療につながるといった知見の集積がないことから、現時点で積極的に支持する理由は見いだされない。聞き取り調査により石綿ばく露があると考えられる者を対象に、検査を行うべきである。

### (1) 石綿ばく露の評価

保健所、産業保健推進センター、労災病院等の相談窓口を積極的に活用し、相談を受けたところは自記式簡易調査票を併用したりするなどして、石綿ばく露の有無について評価を行う。石綿のばく露があると疑われた場合には専門家を紹介し、専門家は詳細な聞き取りにより石綿ばく露について評価を行う。

### (2) 胸部エックス線撮影等の実施

専門家は石綿ばく露の聞き取り調査の結果、石綿のばく露があると判断した場合には、胸部エックス線直接撮影を実施する。胸部エックス線検査で所見が認められない場合でも、初回は胸部 CT を実施して石綿関連所見の有無を確認しておく方がよい。所見の有無にかかわらず、石綿ばく露があると判断された者は、定期的な経過観察が有用である。定期的な経過観察は、放射線被曝に配慮し原則的に胸部エックス線直接撮影で行い、必要に応じて胸部 CT 撮影を実施する。

石綿ばく露歴がある者が喫煙習慣のある場合、肺がんの発症リスクが高まるという報告もあることから、禁煙を勧めることも大変重要である。

### (3) 疫学的手法による健康調査の実施

石綿のばく露の可能性が高いと考えられる地域や集団に対して、健康障害を評価する、いわゆる疫学調査を実施し、本当にその地域・集団のリスクが高いのかどうか評価を実施するとともに、有所見率等のエビデンスの集積を行い今後の健康管理に資することが重要と考えられる。このような疫学的な調査を実施することによって、現時点でばく露の可能性が高いと考えられる集団に対して正確な情報を提供することができるため、住民にとっては不安の解消になる。

## 3. 今後更に進めていく対策

### (1) 中皮腫登録

中皮腫症例の情報を登録し一カ所に集中させることにより、職業歴や生活歴についての情報も整理され、石綿による健康被害の実態をはじめとした様々なデータを分析することが可能となるとともに、治療中の症例へ新たな知見を早期に還元することができる可能性がある。今後、中皮腫登録のあり方について検討を行う必要がある。

### (2) 石綿含有建材等からの飛散状況の把握

石綿含有建材が使用されている施設等の代表的な例について石綿濃度を測定し、現在規制のない環境や建物内のその濃度測定結果等を踏まえ、空気中の石綿（濃度等）の管理指針を新たに定めることが必要である。

これにより、石綿濃度の高い環境については、早期に対策を講じ、新たなばく露を予防することが出来ると同時に、住民の相談に対して科学的に回答することができ、不安の解消につながる。

### (3) 石綿関連疾患を的確に診断できる医療従事者の養成、研修

今後、石綿関連疾患が増えることが予想されるため、石綿関連疾患を的確に判断できる医療従事者を全国的に増やしていく必要がある。医療従事者に対して、石綿ばく露についての聞き取りのポイントや画像診断などについて、啓発に努めることが重要である。